

平成 23 年 12 月 13 日
西中国信用金庫

第 29 回かんもん景気ウォッチャー調査

平成 23 年 11 月調査結果

最終消費を中心とした関門地域の景気動向を、「第 29 回かんもん景気ウォッチャー調査」結果からみると、3 か月前と比べた景気の現状判断 D I は、前回調査（平成 23 年 8 月）から 3.4 ポイント下降して 48.3 となり、現在の景気水準自体の判断 D I は前回は 3.9 ポイント上回る 39.2 となった。なお、先行き判断 D I は、49.2 の見通しにある。

景気ウォッチャーによる判断を総合すると、関門地域の景気の現状は、持直しの動きがやや鈍化している。

（この調査の対象先）

・ 大型小売店・専門店等	6 人
・ 飲食店関係（含むスナック）	5 人
・ 観光関連（ホテル・旅行業者）	7 人
・ タクシー業界	4 人
・ 商工業団体等	8 人

計 30 人

〔 照会窓口：調査室 〕
TEL：083-223-3632

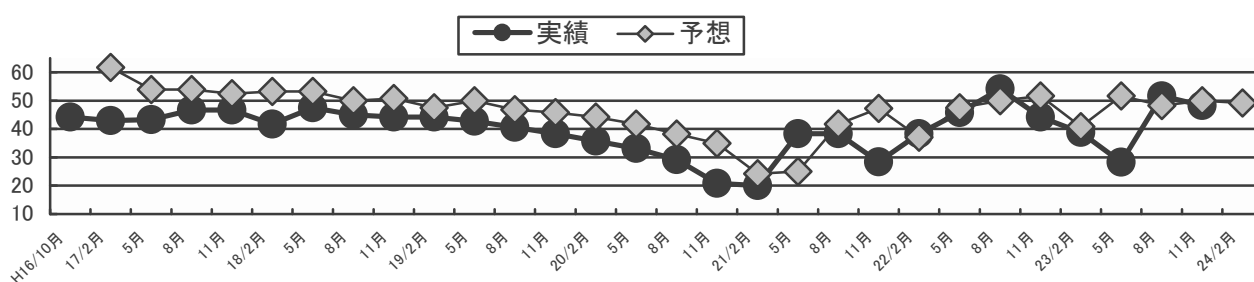
調査結果の概要

1. 景気の方角性に関する判断DI

3か月前と比べた景気の方角性に関する判断DIは、48.3と前回調査を3.4ポイント下回った。なお、平成24年2月頃を見通した先行き判断DIは、49.2となっている。

平成23年 2月実績	平成23年 5月実績	平成23年 8月実績	平成23年 11月実績	平成24年 2月予想
38.8	28.3	51.7	48.3	49.2
〔前回調査時点 予想40.8〕	〔前回調査時点 予想51.7〕	〔前回調査時点 予想48.3〕	〔前回調査時点 予想50.0〕	

▽「景気の方角性に関する判断DI」（調査開始時点からの推移）



(注)DIの見方

判断DIは「50」を基準点として、上回れば「景気が良い」との見方が多く、下回れば「景気が悪い」との見方が多いことを示す。

(1) 3か月前と比べた景気の現状判断DI

3か月前と比べた関門地域の景気の現状判断DIは、48.3と前期から3.4ポイント悪化し、“景気は横ばい”であることを示す50.0を下回った。（内閣府による全国の（11月）調査結果は45.0）。

景気ウォッチャーからは、「寒さの到来が遅かったことなど天候要因から衣料品を中心に冬物商品の動きが鈍く、厳しい状況が続いている」（小売）、「消費マインドは弱く客単価の低下から売上高としては前年比1～2%の減少となっている」（小売）、「円高で海外旅行が若干多くなっているが限定的で、どちらかといえば日帰り旅行を中心とした安価なものが主体となっている」（観光関連）などの意見があり、関門地域の景気は、震災後の持ち直しの動きがやや鈍化している。

(2) 景気の先行きに対する判断D I (3か月先までの見通し)

3か月先までの景気の判断D Iは49.2となった(全国の先行き判断D Iは44.7となっている)。

景気ウォッチャーからは、「関西方面を中心としたセールスが奏功した観光バス受け入れの好調さがあり、来年2～3月までは続くものと期待できる」(飲食関係)、「震災ショックもなくなりつつあり、客足が回復する」(商工団体)などとする意見もあるものの、「季節的な消費は伸びてくると思うが、全体的な景気、消費が上向く材料に乏しい」(小売)、「欧州の金融情勢や為替動向の不透明さが心理面に影響して消費が落ち込むと思う」(小売)と先行きに慎重な見方をする意見が多い。

一方、「企画をやれば人は集まり、打てば響くような環境にはあると思うので大いに工夫を凝らして行きたい」(小売)、「国体開催に伴う効果は大きかったと同時に来県者に好印象を持っていただいた。次につなげる努力が必要である」(観光関連)、「官民共同の観光キャンペーンが効果を挙げているが、一方で例えば産業や歴史資料を展示するような施設面の整備、てこ入れも必要になってきている」(観光関連)といった意見が出されているところである。

2. 現在の景気の水準に対する判断D I

関門地域の判断					(参考) 全国の判断				
22年 11月	23年 2月	23年 5月	23年 8月	23年 11月	22年 11月	23年 2月	23年 5月	23年 8月	23年 11月
35.0	33.6	27.5	35.3	39.2	36.9	41.7	31.7	40.6	39.7

現在の景気の水準自体が「良いのか」、あるいは「悪いのか」に関する判断D Iは、前回調査から3.9ポイント改善して39.2となった。

以上

(参 考)

かんもん景気ウォッチャー調査について

1. 調査の目的

関門地域において、景気に関連深い動きを直接観察できる立場にある方々のご協力を仰ぎ、この地域の動向を的確かつ迅速に把握するとともに、景気動向判断の基礎資料の1つとすることが目的。

2. 調査の範囲

(1) 対象地域

下関市周辺地域および北九州市門司港周辺地域。

(2) 調査客体

個人消費の動向を中心に景気動向を敏感に反映する現象を観察できる方々の中から、30人の方にご協力いただいている。

3. 調査事項

(1) 景気の現状に対する判断（方向性）

(2) (1) の理由

(3) 景気の先行きに対する判断（方向性）

(4) (3) の理由

(参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4. 調査・発表時期

調査は、毎年4回（2月、5月、8月、11月の月中）実施し、その翌月発表する。

5. DIの算出方法

景気の現状、又は先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI値を算出している。

評価	良い (良くなっている)	やや良い (やや良くなっている)	どちらとも言えない(変わらない)	やや悪い (やや悪くなっている)	悪い (悪くなっている)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0